15. 北木島『金風呂地区』の空襲について

― 悲しみを乗り越えて ―

物資も豊富にあり、平和な世の中を平和であるとも気づかないまま過ごしていますが、私たちが生まれ育ったこの北木島も、過去に戦争による被害を受けています。第二次世界大戦真っ只中の昭和１９年、豊浦地区が米空軍の機銃掃射を受け、油輸送船船員１名が死亡しています。また同年大浦地区では、機雷が民家を直撃、昭和２０年８月には金風呂地区が焼夷弾によって民家が焼けて、死者も出るという被害を受けています。岡山県では、水島が４度の空襲を受け工場が全滅となっていますが、民家に対する被害は、金風呂地区が岡山市空襲（昭和２０年６月２９日）に次いで２番目ということです。私たちは、この金風呂地区の空襲について取材することになりました。実際に空爆を体験された鶴田敏江さん・畦坪ミズエさんに当時の様子を語っていただき、戦争にまつわるお話を片山勝さん・佐藤義博さんに伺いました。空爆を体験されたお年寄りのお話もまじえ、それらをここで紹介したいと思います。

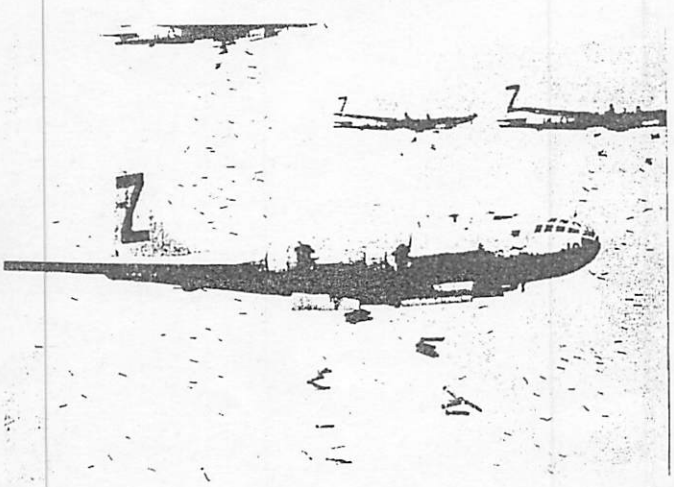
当時の金風呂地区は、男性のほとんどは兵隊、または、軍需工場の労働者として全国へ散らばっており、島へ残っていたのは、女性・子供・老人ばかりでした。働き手がいないため石切り場も閉ざされ、国からは僅かな米の配給のみで、芋や麦を作ったり、魚を捕ったりと自給自足の生活をしていました。戦争に対する備えといえば、２４時間体制の監視所を設け、女性たちが交替で敵か味方かの識別・高度・方向・機種等を双眼鏡で監視し、本部と連絡をとっていました。戦中、豊浦地区で物資を運ぶ準備をしていた船に向けられたグラマン戦闘機の機銃掃射を、いち早く本部へ知らせたのがこの監視所です。そのほか、住宅の壁面全体に黒く焼け焦がした板を張り付けて、戦闘機から目立たない工夫もしていました。けれど、島に住む人々は昼間Ｂ２９が単機で飛来しても、もう慣れてしまって逃げないこともありました。軍需工場もなく、人口も少ないこの島は安全だと信じて疑わなかったのでしょう。だからこそ、岡山市空襲のあと、北木出身の人以外にも、島へとやってくる被災者は多く、１日１往復の巡航船に乗って、桟橋を踏む人が跡を絶たなかったといいます。

しかし、その悲劇は終戦のわずか１週間前に起こりました。１９４５年（昭和２０年）８月８日午後９時３０分。あの福山大空襲と同日のことです。その夜は晴れており、戦闘機の旋回する音がよく聞こえる夜だったといいます。ちょうど、アメリカ軍が空襲の重点を無防備な地方中小都市におき、焼夷弾による無差別攻撃をしかけていた時期です。テニアンを基地にしていた第５８航空団のＢ２９爆撃機約９０機によって、福山は大空襲を受けました。死者３５４人、重傷者８６４人、焼失比率８０％という壊滅的な被害を受けたのです。その福山大空襲の直後、バリバリバリ、ドカーン。大きな爆音とともに金風呂地区が空爆されたのです。『なぜ、金風呂地区に.....。』誰もがそう思ったことでしょう。民家のなかで消し忘れた電灯があったらしいとも言われています。福山市への攻撃と同様に、最初照明弾が、ついで焼夷弾がつぎつぎに投下され、バックリ山の中腹から一気にふもとにかけて燃え広がっていきました。３００ｍ上空、１発の親弾から４８発のＭ６９焼夷弾がばらまかれる様子を、その当時まだ子供だっ

た体験者はまるで花火のようだったと表現しています。突然の出来事に一瞬何が起こったのか分からず、皆あわてて飛び出し、家族の名前を叫びながら無我夢中で避難しました。敷布団をかぶりながら石橋の下へともぐりこんだり、水の中が安全だろうと海へと飛び込んだり、高山を越えて下浦の浜へ逃げたり、船に飛び乗って沖のほうまで逃げたりと思いつくままに。敵機の音が聞こえなくなると、人々は家族の無事を確認するために戻り始めました。焼夷弾は水をかけたら消えると消防訓練で習っていたこともあり、疲れたからだで協力して消火活動にあたりました。死者２名。焼失家屋５７戸。一度は避難していたものの、教科書を取りに戻った小学３年生の女の子と乳児の２名が命を奪われました。悲しみに沈んだ夜。島中から金風呂地区へ見舞いにやってくる人々の列が続いたそうです。すべてを一瞬のうちに灰にされ焼け出された人々は、夏であったため、着るものにはあまり困りませんでしたが、小学校の校舎を借りたり、バラック小屋を建てるなど不自由な生活を余儀なくされました。

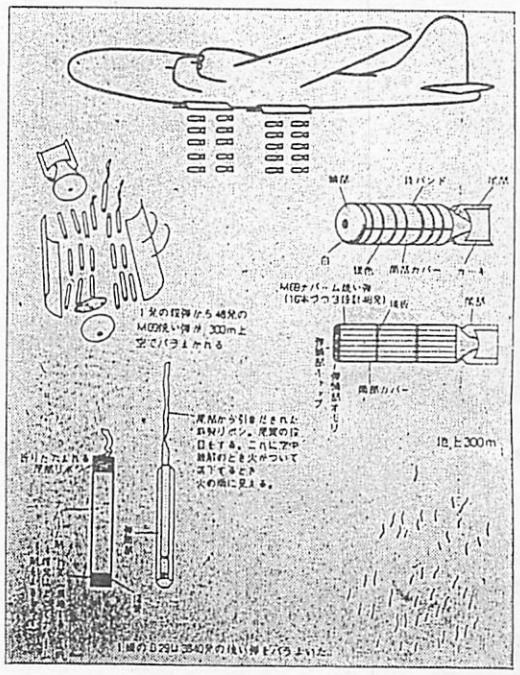
現在の金風呂地区は住民の努力によって復興を遂げ、空爆の爪跡やその資料はほとんど残されていません。島にあるいくつかの防空壕と体験者たちの声のみがわずかに悲劇を伝えています。戦後５１年、薄れゆく記憶のなかで私たちが受け継いでいかなければならないこと ―― 平和 ――。この取材は、それを考える機会を私たちに与えてくれました。

爆撃中のＢ２９

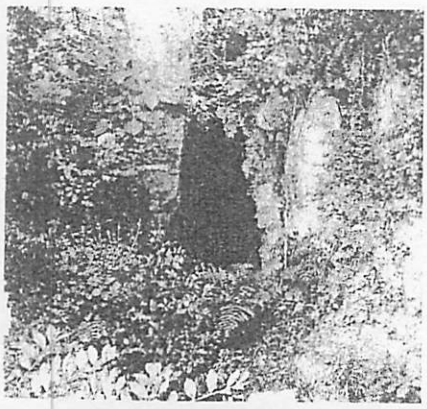


「忘れまい福山空襲より」

焼夷弾の投下状況　　小橋良夫 作成



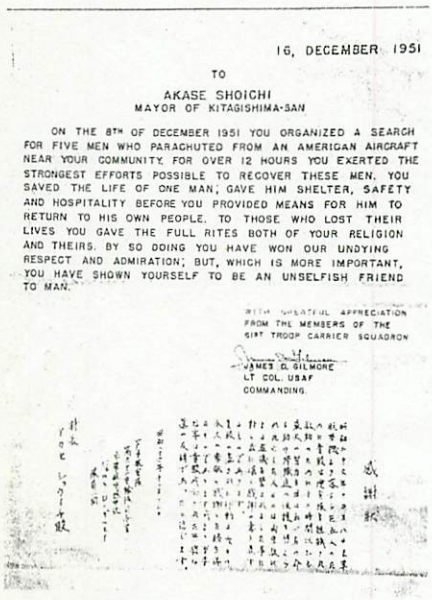
防空壕跡（豊浦）



（取材）３Ａ　小見山和城　　畦坪　将宣
２Ａ　畦崎　愛弥　　藤井つかさ
１Ａ　奥野絵里香　　近江　雅美　　奥野　美和
職員　清水　敬子

16. 空からの訪問者

終戦まもない昭和２２年１２月８日の午前０時頃、九州の佐賀県遠賀郡にある陸軍飛行場に物資を運んでいた米軍の飛行機が縦島沖で墜落しました。乗っていた米兵６人のうち助かったのはわずか１名。その１名が金風呂港に泳ぎ着きました。背中に落下傘をつけていたので墜落するまえに飛び降りたとみられています。真冬であったため『ＣＯＬＤ、ＣＯＬＤ』と震えながら助けを求めて来たので、大阪で教員をしていた英語の分かる女性が通訳し、みんなで介抱しました。のちに笠岡警察署に事情を聴きに来た航空隊中佐が人々の親切に感動し、感謝状を贈り、お礼として火で目印をつくった北木西小学校の校庭に向けて飛行機からチョコレート・石鹸・たばこなどの物資を落としました。当時では貴重なその物資は、人々を喜ばせ、みなに分けあたえられたそうです。金風呂地区の空爆からまだ２年しかたっておらず、戦争のいたみも癒えていなかったでしょうがとても素敵なエピソードとして残されています。



16, DECEMBER 1951

TO

AKASE SHOICHI
MAYOR OF KITAGISHIMA-SAN

ON THE 8TH OF DECEMBER 1951 YOU ORGANIZED A SEARCH FOR FIVE MEN WHO PARACHUTED FROM AN AMERICAN AIRCRAFT NEAR YOUR COMMUNITY. FOR OVER 12 HOURS YOU EXERTED THE STRONGEST EFFORTS POSSIBLE TO RECOVER THESE MEN. YOU SAVED THE LIFE OF ONE MAN; GAVE HIM SHELTER, SAFETY AND HOSPITALITY. BEFORE YOU PROVIDED MEANS FOR HIM TO RETURN TO HIS OWN PEOPLE. TO THOSE WHO LOST THEIR LIVES YOU GAVE THE FULL RITES BOTH OF YOUR RELIGION AND THEIRS. BY SO DOING YOU HAVE WON OUR UNDYING RESPECT AND ADMIRATION; BUT, WHICH IS MORE IMPORTANT, YOU HAVE SHOWN YOURSELF TO BE AN UNSELFISH FRIEND TO MAN.

WITH GREATEFUL APPRECIATION
FROM THE MEMBERS OF THE
61ST TROOP CARRIER SQUADRON

JAMES G. GILMORE
LT COL. USAF
COMMANDING.

米軍より送られた感謝状

お礼の物資に喜ぶ人達

（取材）３Ａ　小見山和城　　畦坪　将宣
２Ａ　畦崎　愛弥　　藤井つかさ
１Ａ　奥野絵里香　　近江　雅美　　奥野　美和
職員　清水　敬子